
福岡市在住の 障がいのある人々の 差別体験アンケート

今回のアンケートは、障がいがあることを理由に「いやな思い」や「悔しい思い」、「悲しい思い」をした事について書いていただきました。

広くいろいろな思いを書いていただくことで、福岡市で暮らしている障がい者が、日常生活のあらゆる領域において、さまざまな差別を受けている実態が明らかになりました。1,100 を超える事例の一つひとつが、本来提供されるべき支援をいわれなく拒否されたり、体験する機会を奪われたり、差別的な言動を受けたりすることによって、障がいのある人の権利がいかに侵害されているかを示しています。

その背景には、人権について、また障がいや障がい者の権利について、正しく学ぶ機会が保障されていないという問題があると考えました。

人権について正しく学び、理解することができていれば、すべての国民は個人として尊重され（憲法13条）、憲法が保障する基本的人権が侵すことのできない永久の権利として与えられていること（憲法11条）を認識し、障がいのある人に対しても、分け隔てのない態度で接するはずで、すべての市民が正しい人権感覚を身につけ、障がいおよび障がい者の権利を正しく理解するためには、生涯にわたる人権教育が必要です。就学期において学校で学ぶ機会を確保すること、人生のさまざまな段階において、必要に応じて人権と障がいについて学ぶ機会を設けること、だれもが日常的に障がいのある人と交流する機会を持つことのできる環境をつくり、あるべき共生社会について共通のイメージを持つことができるようにすることが必要です。

回答いただいた全事例の内約30%は私人間の問題であり、とりわけ「コミュニティ・社会・その他」に分類される暴言・ハラスメントや偏見・無理解の事例は膨大な数字にのぼっています。

こうした問題を個人の責任にせず、社会のあり方の問題として、学びの場や問題解決の場を築き上げる責任が、福岡市にはあり、そのための具体的な施策を模索し、実現化することこそが、条例には求められているのではないのでしょうか。

福岡市に障がい者差別禁止条例をつくる会事務局
(NPO法人福岡市障害者関係団体協議会内)

①福岡市では平成14年から全認可保育園での障がい児受け入れをうたっているのに、障がいを理由に保育園の受け入れを断られたことがある、また、障がい児保育では親に同伴を求めることはできないはずなのに、園外活動等に保護者同伴を求められた。(知的障がい・発達障がい)

②風邪で内科を受診した時、精神科に通院していると言ったら診察を拒否された。(精神障がい・統合失調症)

福祉・医療

③胃透視検査を受けに行ったところ、耳の聞こえない人はコミュニケーションができないので他の病院に行ってくれと言われた(聴覚障がい者)

④レストランでメニューを見て店員さんに筆談で質問をした。丁度お昼時で店内は混んでいた状態ではあったが、途端に「メニューは写真でわかるようになります。混んできているので、早く決めてください」と責められて口調で言われた。叱られた様な気分になって、食事が楽しめなかった。「障がい者はよそに行ってくれ。」と言わんばかりの対応を受けた。(聴覚障がい)

⑤クレジット会社と契約して割賦で商品を購入するとき、電話での本人確認が行われた。聴覚障がいへの対応を考えていない。(両感音性難聴)

⑥住居を探そうとしたが、車いすだという理由で何件も断られた。(進行性筋萎縮性による肢体不自由)

商品・サービス・不動産

⑦ショッピングモールに家族で行ったとき、昼食を食べようとお店をさがして「車いすの子どもがいるのですが、大丈夫ですか？」と尋ねてみたら、「ダメです！」と言って断られ、嫌な思いをした(脳性麻痺)

⑧バス停付近の住民のクレームが原因で、いつの間にかバス停での車外案内が消えてしまった。弱視なので、行き先が分かりにくくて困る。視覚障がい者にとって耳からの情報は大切なのに。(視覚障がい・肢体障がい)

⑨この三年以内にできた新しいレストランなのに、高い段差がありスロープもなく、利用をあきらめる店が度々ある。(進行性筋萎縮性による肢体不自由)

⑩電車の駅員に「車イスで乗ります！お願いします！」と言っても、次の電車をお願いしと言われることがしょっちゅうあり、通院の時など、急いでいる時が困る。(脳性麻痺による上下肢機能障がい)

交通・建物

⑪手動車いすでタクシーを利用しようとしたら、乗車拒否された。(進行性筋萎縮症による肢体不自由)

⑫仕事で朝礼の時、上司の説明内容が、みんなにはわかるけど、私にはわからない。紙に書いて欲しいけど言えませんでした。(聴覚障がい)

⑬コンビニで働いている時、障がいを申告して仕事をしていましたが、店長が変わって異動してきた店長から「うちのコンビニでは、障がい者は扱っていないから、明日から来なくて良い。」と言われました。(てんかん性精神病・統合失調症)

労働

⑭タクシーで整備補助をしていた時、決められた仕事以外の雑用を次々と何回も他の整備員に押し付けられました。1年近く我慢しましたが退社しました。(知的障がい)

⑮小学校の時、体育で鉄棒や水泳などで自分ができないときに、じっとしているしかなかった。自分にできることを教えてもらったり、手伝ったりしてもらいたかった。みんなと一緒にできないことはつらかった。(知的障がい)

⑯中学校の卒業式の際、他の人は出席番号順で呼ばれており、順番が近くなったので立ち上がろうと準備をしていたがとばされ、最後に呼ばれた。差別を感じ、とても残念でくやしい思いをした。(情緒障がい)

教育

⑰地下鉄の事故等による放送はほとんど音声によるもので情報が十分に保障されていない。(聴覚障がい)

⑱幼稚園に問い合わせをした際に、発達に遅れがあることを告げると、態度が変わって「うちでは責任がとれません」「障がい者はお断りしています」と言われた。(広汎性発達障害)

⑲地方のNHK・民放のニュース番組に字幕をつけてほしい。災害・事故等をアナウンスされるが聞こえない者には分からない。緊急時に対応が遅れ、命の危険にさらされることが起きる。(聴覚障がい)

情報・コミュニケーション

⑳厚労省管轄のリハビリセンター等の施設で十分に点字や音声による説明、テキストデータでの提供などの情報保障が受けられなかった。(視覚障がい(全盲))

周りの人や地域・社会の人へのねがい

㉞ 知的に障がいをもつ人は、嫌な思いをしても自分で伝わる表現で訴えることが難しいことや、又、差別を受けていることがわからないことがあることを理解してほしい。親でも、見ていない所で差別されていると本人からの訴えや説明がないので”わからない”ことが多い。「変な人」や「困る人」ではなく「困っている人」と理解してもらい、差別感情をなくす（減らす）ようになってほしい。

㉟ 障がいがあることが特別な事ではなく、色々な人がいる中の一人だという事を理解してほしい。

㊀ 精神障がいは誰にでも起こる。特別なことではないことを理解してほしい。大人だけでなく学校の教育でも少しでも学んでほしいと思う。

㊁ 補助犬と外出している時に勝手に補助犬をなでたり、声をかけたりされると犬の注意がユーザー以外に向き（仕事に集中できず）補助犬・ユーザー共に危険です。まずはユーザーに声をかけてください。

㊂ 公共の場の駐車場、障がい者用スペースは、健常者はできれば止めないでほしい。個人のモラルの問題だとは思いますが・・・。車いす利用は一般の狭いスペースでは、車の横に車いすを付けて乗降できないことを知ってほしい。

㊃ 耳が聞こえないと言うと、声を大きくしたり、耳に近付けて話しかけたりすることが多いので、聴覚障がい者のコミュニケーションはいろいろあることを理解してほしい。（手話・筆談など）

㊄ 障がいのある子を持つ親はそうでない親と同様我が子を愛し、決して不幸ではない、ということを理解してほしい。障がいがある人もその人の得意な面、素晴らしい面、があるということを知ってほしい。そのためにはこちら側も自分の子どもについて理解してもらう為に地域での活動など積極的に参加してまわりの人たちと関わる必要があると思う。障がいを持つ人やその家族が活動に参加したり関わっていくことを温かく受け入れてくれる社会であってほしい。

㊅ 東日本大震災を機に、住んでいる地域でも避難訓練が実施されているが、動ける人だけの避難訓練で自力で動けない障がい者はとり残されているように感じます。